

藏
209

竹四

大目丹

天保十一年旧記校書

野原利徳

富山大学

菊池文書

480

天保十二年四月廿五日

大目付

通用帳より、今年度迄、
朱限方、
右に記す。

十二月

右に記す。

通用帳より、

公義、

家来、

江戸、

有子張子為其志也

庚子正月十九日

奥村丹後守中

渡辺新虎中

由用限書云々

公義沖繩之別紙に由丹後守及丹波守等
由子之由立役人等七村十村之由丹後守
先了早速由丹後守等之由

子正月十九日

渡辺新虎中
新田江之代中

渡辺新

由接指十村中

平十村中

新田江之代中

山廻中

井波陽泉寺之長老等集太子講中

定飛云々附し

富実之由

云々

右

子正月廿四

陽明新嘉
市田河元平

新嘉坡

陽明新嘉坡

平十村

此處之子正月廿四日

寅人

市田村

長一市

松新町

源一町

但此月乃子正月廿四日
省以作記

陽村

二七市

陽村

市田村

此處之子正月廿四日

此處之子正月廿四日

子正月廿四

陽村

市田村

松新町

源一町

此處之子正月廿四日

此處之子正月廿四日

松山府下町先之町通る山越して

子より

松山府下町

國後本島

賞

一 走人等々松山府下町先之町通る山越して

事後此の事何れも走人等々松山府下町先之町通る山越して

事而此松山府下町先之町通る山越して

後在松山府下町先之町通る山越して

内紀文解に内通る山越して

一 走人途中に松山府下町先之町通る山越して

いさそそ

一村に松山府下町先之町通る山越して

松山府下町先之町通る山越して

一村に松山府下町先之町通る山越して

一村に松山府下町先之町通る山越して

一村に松山府下町先之町通る山越して

一村に松山府下町先之町通る山越して

一村に松山府下町先之町通る山越して

一村に松山府下町先之町通る山越して

瀨波郡

比羅丸十村中一木

平十村中一木

新田中一木

山道中一木

瀨波郡山田組中村より古久川下流より振替より新田中村の奥まで
比羅丸十村中一木より平十村中一木より新田中一木より山道中一木
より比羅丸十村中一木

二月廿

沖安用場

河合清盛

松田左衛門

比羅丸十村中一木より平十村中一木より新田中一木より山道中一木
より比羅丸十村中一木より平十村中一木より新田中一木より山道中一木
より比羅丸十村中一木

一百名

内

森田

岩

播磨

三橋

昭信

福聖

福光

同所

石黒

一百名

負人

比羅丸十村中一木

拾石

福師齋

瑞光所記和歌卷之五

實

一百名

吉之而骨振聲

五拾石

福之如龍

少珍石

國所藏和泉元龜

鳳凰洲前郡。柳塘稼穡。出車戾兮。乃是近哉。中依東海。出
於東海。受命。傳。漢。上。之。天子。組。綬。分。新。漢。上。之。天子。亦。可。知。
去。之。月。初。日。厚。和。之。氣。漢。上。沙。改。此。而。古。亦。就。仁。中。中。而。上。之。御。於。

[illegible]

子二月

和生順方

伊底命

沛郡

師古所為

鴨川村

春書

柳尾甚七師

是と田畑屋敷と木材免り地と上とを併合せしむる事
地味と云ふ事免り地と成りて木材及び産物と云ふ事免り地と
なり市上屋敷地と云ふ事田畑并爲徳寺地并免り地と云
ふ事免り地と成りて木材と云ふ事免り地と成りて市上
上免り地と成り入免り地と成り免り地と云ふ事免り地と
免り地と云ふ事免り地と成り免り地と云ふ事免り地と
是と市上屋敷地と云ふ事免り地と成り免り地と云ふ事免り地と

年中并々新書を著して批判と概名新と通新（笑）と
 作らるゝ様法を其當年の師先例と通臨宗と分る
 所免は給ふと云ふ所存はして之を以て筆中安方お池
 中臨宗臨宗と云ふも五つと云ふも多々於文而臨宗と云
 筆法と云ふと云ふ

五二

以能育之

即此

卯子卯子

切工必痛々糸御重く通あるが故に其の糸を淺く引くと糸が切れる事

改印

予予

右、執年安中、北、中、淡、桑、下、得、志、心、上

子二月

中興用場

渡邊新鹿皮
菅田花皮

右軍と通じし条はそと去りて後化國未嘗入らずと云々
 之を并費入るべきに記彼所相大日如來の性面即死す所なり

子
二
月
七
日

即此

聯修部

市橋人十廿中

平十村

知先王之道者

村坊歌謠

東坡新村推主潘王化新村市帝廟脚田村七帝廟山脚村帝廟谷村
陸家山坂村店帝廟王神村是帝廟各戶村化帝廟神成村保信橋谷村橋
池底村縣帝廟池田村宜帝廟同村牌南坂帝廟北坡村陸家山六隊村
五坡村寺家村次帝廟岩市村依帝廟西坡村店帝廟市帝廟市帝廟

東坡新村接王化村市帝廟即田村古廟小嶺村老帝廟及村
莊廣山坂村店帝廟王神村是帝廟各村北帝神成村保德谷村新
池底村縣安池田村寶善寺同祥南院帝廟北法村陳家八隊村
云^元慶沙寺家村次帝廟岩木村伍帝廟西郭寺村義慶布衣各村忠堂

一、銀沙多花
二、銀沙多花
三、銀沙多花
四、銀沙多花
五、銀沙多花
六、銀沙多花
七、銀沙多花
八、銀沙多花
九、銀沙多花
十、銀沙多花

為中子止故曰攝古經迄今為根子法大書以系以主之其以配南
組七許人之主之許中分一中法乃上

實

主務組糖子房村

古在門

毀吳組下海生村

良古

庄組程成村

莊無清

少德下老孝村

帝主清

山見德主德村

帝主清

玉吉組過村

原助

右柳梅育方世法世中世用高北中世祖水自亮世北世法世清世以之
角在室室房未去人當時中皆未去世法世清世以之
文主法世以之世法世以之世法世以之世法世以之

子二月

葉木子卿

石清市官無

長田金古無

世無

帝主清

依本浦常法

二場村

助成

早倉

源南

右依本浦入洋船内洞係漢倭或如此事以了後分爲薩摩之爲也
横切し外浦より進出是近私官屋書付る形以分り来助成
亦此等如也改修及不意以て右書付其入内加奥書付る也
下以は後助成書付る中成る

二月

公條系文政市及

沖安用場

屏風方主附

大西村

加賀

松本新町

源田

性生村

吉野

大瀧村

十番

右若原地が洞理有るが近き水見浦地方に六月朔多雨年二月
晦日迄干潮中実質負敷が改修後毎年六月中右加賀が洞理
等々系主官に細書中右洞改入の目録有るは是より五番中成る

二月

沖安用場

織田近皮

大面村

加藤

草野

源助

地生村

吉田

大滝村

市田

右ノ者厚老爲河野之由也余各支配所於今六月朔分公翌年
 六月朔迄二箇月壹度負數出度附帳每年六月中右ノ者由由也
 以是之由也一箇月右ノ者由由也入津高加藤由由也附帳以是之由也

此巨細之書也

一伏本浦入津取の内個借漢借或ハ此取事ホリ一以分雇取之様
 替外浦トモ迄度分預知以津取同登書月成来浦常造二塔村
 助取ノ家數村津内ノ内圖書を以津中後以是右圖書也
 此等雇取及以津取同登書以津中後以是右圖書也
 右ノ者由由也一箇月右ノ者由由也入津高加藤由由也附帳以是之由也
 以中後以是

二月

市田

市田

市田

子二月

改此本行

新設部 村永吉郎

新設部 中 小

石橋市街身衣衣部 多橋波部綿高之附下流也東之流也

子二月十日

松平左衛門
坂田吉三郎

新設部

新設部 中

新設部 中

新設部 中

振替手立百拾五元 此月以自集結如去年振替手立振替五元 振替手立百拾五元 此月以自集結如去年振替手立振替五元 振替手立百拾五元 此月以自集結如去年振替手立振替五元

二月十日

御安用場

改此本行 中

佐野總領 振替手立百拾五元 此月以自集結如去年振替手立振替五元 振替手立百拾五元 此月以自集結如去年振替手立振替五元 振替手立百拾五元 此月以自集結如去年振替手立振替五元

切言世説又後人系之村役人
國書に未だ通

右村役人石印編より原係より通

印編より

通

此は調性より事

前代手入方中より別紙に渡り文法別を所生心持候下
該方は御届方左様中より急遽に通達候者も通達候下

子二月四日

田辺政常

後取

市井坊人中様

十村中様

新田中様

権柄より加列向來飛出消る御任不直向支主心持候下
後取より不取候下

一節代より大切に正月より分渡りも五丁目別は右前代田越
延末迄國をいし一風雨未より中様後取より一節代より一統
中渡右田園よりいし中様迄支より中様迄候役人より中様迄
中様迄中様迄中様迄中様迄中様迄中様迄中様迄中様迄中様迄

比良乃月 下

法歌

山田
新羅
中

此歌友主一人云云

戸部花津備の所寄の分目と云右計り是れが津運中ありと判
人馬と云ふ所は若にまて中屋と云ふは中屋人言はるる或は中屋
所と云ふ中屋備の所城高月の中屋津城の中ありと右記に決す所
又云ふ所城高月と云ふ所人馬と云ふ所は中屋津城の中ありと
右記に決す所と云ふ所人馬と云ふ所は中屋津城の中ありと

中屋津城の中ありと

子二月晦

室起仙師

松崎隆師

山田津城

右記の中屋津城の中ありと云ふ所は中屋津城の中ありと判
人馬と云ふ所は若にまて中屋と云ふは中屋人言はるる或は中屋
所と云ふ中屋備の所城高月の中屋津城の中ありと右記に決す所
又云ふ所城高月と云ふ所人馬と云ふ所は中屋津城の中ありと
右記に決す所と云ふ所人馬と云ふ所は中屋津城の中ありと

一小室津城と云ふ所は中屋津城の中ありと判人馬と云ふ所は中屋津城の中ありと

此中屋津城の中ありと判人馬と云ふ所は中屋津城の中ありと判人馬と云ふ所は中屋津城の中ありと

方とて此中屋津城の中ありと判人馬と云ふ所は中屋津城の中ありと判人馬と云ふ所は中屋津城の中ありと

若井寺

子二月未日

安田新書

河合清海

以能之書久

御教達人より至りし別紙より由縁及身より承知申上り候事
以備方より至りし別紙より由縁及身より承知申上り候事
以備方より至りし別紙より由縁及身より承知申上り候事
以備方より至りし別紙より由縁及身より承知申上り候事

二月未日

以能之書

落書事助振申上り

由縁及身より至りし別紙より由縁及身より承知申上り候事

天保十一年三月

接取書

南紀荒記日限申渡候

何組

今日御教達申上りし別紙より由縁及身より承知申上り候事
以備方より至りし別紙より由縁及身より承知申上り候事
以備方より至りし別紙より由縁及身より承知申上り候事
以備方より至りし別紙より由縁及身より承知申上り候事

宋漢之帝後

二月晦日

汴安用場

同慶十一年

中孫人記

廣濟堂

二

極
凡
五
七
八

渡辺新彦

蕭田江記

條東文選

平野知幸

矢部平度

長及七節餘

湯東平

陳國

昭平之雲

伊比志

園田莊之傳

國漢書

欽本之殿

此書之為世道者多矣且其言而方輿啟之義尤著焉

卷目上中每用場をり、

再末寺再建并少部方々をて我中車を引通し新橋板木
古板の月の約をり——古通を危中橋にお通し不中板を係九年に月
御殿より、中派をり通しはけききあふ地車より引通し中派を
換りききあふ末寺より自を成後理をり得る也と大木を引通し
多引板木古板の御事を見出し如より中派御事より中派を
筆心は遠きと後部をり中派をり中派をり中派をり

子二月

右より通し中派御事并中派御事より中派御事より中派御事より
所立はより中派御事より中派御事より中派御事より中派御事より

右より通し中派御事

子二月十日

新田江花

新田江花

中派御事

中派御事

中派御事

當末位御農事一はより方々をり中派御事より中派御事より

通しはより方々をり中派御事より中派御事より中派御事より

中派御事より中派御事より中派御事より中派御事より

中派御事より中派御事より中派御事より中派御事より

生龍子續りて五ノ海なるに高年順年なりと云龍印なり
三ノ海念ノ事必去風雨水旱ノ害遠早心方々あり一ノ海其
中患五ノ万友信信計其心必去風雨水旱ノ害遠早心方々あり
江上之吏之事必去風雨水旱ノ害遠早心方々あり一ノ海其
中患五ノ万友信信計其心必去風雨水旱ノ害遠早心方々あり

子三月十六日

安田新吉

上月歸海

法部

千代子接中

千代子接中

千代子接中

新田也科中

山廻り役中

生龍子續りて五ノ海なるに高年順年なりと云龍印なり

生龍子續りて五ノ海なるに高年順年なりと云龍印なり
三ノ海念ノ事必去風雨水旱ノ害遠早心方々あり一ノ海其
中患五ノ万友信信計其心必去風雨水旱ノ害遠早心方々あり
江上之吏之事必去風雨水旱ノ害遠早心方々あり一ノ海其
中患五ノ万友信信計其心必去風雨水旱ノ害遠早心方々あり

子月

叔本

卯部

陽部

卯部

組

卯部

高先と急進おし市ちし後名判いもし

大圓海

近來諸法圓妙極制此世中本増大坂表そ外より福送り
高多ふく極妙妙若く自托本國畑と耳蕪と此米穀より

妙極制此世を智いし一ゆきと云我事は係る自今以後撰
本國畑と耳蕪と此りゆき停止なるへく他諸地或野山とひき
米穀と惣て此に此りゆきとての格別事

右に述文政元寅年お解り知近年冬撰本成本國畑と耳蕪と
此の撰本成りゆきと云我事高多ふく本國畑と此りゆきと一切
る本に若くお解りゆきと云我事高多ふく本國畑と此りゆきと

右に述文政元寅年お解り知近年冬撰本成本國畑と耳蕪と
此の撰本成りゆきと云我事高多ふく本國畑と此りゆきと一切
る本に若くお解りゆきと云我事高多ふく本國畑と此りゆきと

三月

卯部

近年於法小砂糖之制此世之増益也
公義お渡り申書月早き由お裁之由来り候と云ふ事
其江別御領分と云ふ事御領分と

庚子四月四日 奥村丹後守中

石印右近殿
幸甚敷書殿
前田王馬殿

近年於法由砂糖之制此世之増益也
此の事丹後

公義お渡り申書月早き由お裁之由来り候と云ふ事

子四月六日 御奉行殿

改此の事申中

別紙申通下候と云ふ事切之由申渡り候

子四月 上月御奉行 御奉行殿

法郎
山崎内中
村中
新田中

[illegible]

礪波部

政
地
事
下
下

步後之廣切言之用集諸仕巾收烟該役切爲相親以爲此人之言
 成爲之同節之方之定右之通 步成居此以爲此人之言集年必前
 之而留中收烟指交以爲此人之言步成居此以爲此人之言集年必前
 之而留中收烟指交以爲此人之言步成居此以爲此人之言集年必前
 之而留中收烟指交以爲此人之言步成居此以爲此人之言集年必前

一有良言五言一且師相也其據實也其無所畏用筆更切言
人分其言之多人之近其情也他人之言之近其情也其言之多
者文法之利其言之多者人之近其情也他人之言之近其情也其言
之多者文法之利其言之多者人之近其情也他人之言之近其情也

子三

詩經卷之五

荒車如

石渠寶笈

張雲龍

安

仰
改
元

沙平以和

[illegible]

下下
 下下

法幣子方主附

山田繼

太史公

井口組

石渠

蟹谷

此虎

福聖村六十五號

六在馬

福光村

平齋

福中村

六

石渠寶笈

太師

流雲亭記

十帝后

地生村

去所適

師而志不為師

帝心

長生堂

長安

山内組

庄下組

般若組

若神組

系長組

文源組

六位組

桐木村

中三郎

常盤村

越前

戸田村

長谷

是村

吉市

金谷村

庄下

大龍村

十市

木舟村

長一市

玉吉組

白井

二七郎

南年一丁五毛生付成多夫不客同信防方より先達一統
 中流より通るる又後より上組と通るる方中へ生防方より附付
 ぬる事なき組と通るる中へ組と附付しむ村役人より五毛生付成
 人此等より附付する人ありて五毛生付成る中へ生防方より附付
 自れ生防方より附付する人ありて五毛生付成る中へ生防方より附付
 防方より附付する人ありて五毛生付成る中へ生防方より附付
 防方より附付する人ありて五毛生付成る中へ生防方より附付
 防方より附付する人ありて五毛生付成る中へ生防方より附付
 防方より附付する人ありて五毛生付成る中へ生防方より附付

100

坂田三郎

古今

御

子
記
り
木
九
日

以能定之

荒年平糶

虫附哲子方之附

石里組

石室市房分
 志軍助將
 十市房

前以紙面圖文

四十二

上月

坂田良之助

新渡

ちんてん

立毛虫附下から防方鏡中記法五下分常中後多由
白紙更を被除虫之法逐々敷き落増古記別紙古紙の糸を
支料より及中先被る極細法除剪子入針に記南端より糸末
より村被る糸剪子入針より教習時より改定心より糸末
連より被る被記南端より

子六月

改定を以て

法歌

法持場中

十付中

新田中

山田中

生野路子重所請言より中

稲虫をやる法

うへう法 こめう法 八月半迄より及去用まで生ず そのころはうすく

り あひひおくらりりり 且其稲株をよりひるれからり粉

のどきより一ふよつちをどき 是うへう法 この法を用より

つらうて羽を生ずる羽を生どてなすく

其とき先田一及は録

油を後分し氣候不順の年むいへんとするものなれ

とも油をもち用られ油をえうせぬ田はあつらひ絶やなり

○油の入れやうは春日田をえうとせり 田あられいし切や二三日
希なうとも又ういふて

一とせりて右水をえり水下をとめ時をふは水きたる時天

日中よふへし 雨やうみくもりたなりまは水いえて油ひろがげ切やす
冬時より公事時までの内田をうく田田湯のやういふ外

まつたふ油壺をもち右よまきと貝などの小ききとふ一坪よびて

今とる 油の入れは二入は方などよ
疎やう竹杭や草のまげいふとせ

て油をえりて棉の中へえりてゆへ又疎やうをえりて竹

をもち風上の方より棉をた右へりたりて穂先へまげ

方生とりひきするなり又疎やう柄の長さきき果たききうて

棉のまきふあけて最のころなる生をえりひきするやうにす

終りて一時などすきて水をえり又新いふ水をえり 水をとる
水下の田

なるれいともたいたる生をえりて この油をえりてはういふ田の油を
えりてはういふ田の油をえりてはういふ田の油をえりてはういふ田の油を

三日すぎてしまふ残りけり又別のところへ二三日すれ

うへり生の数を大槓のぞくものなり まの田のすきやう
まの田のすきやう

○又油をえりて 油をえりてはういふ田の油を
えりてはういふ田の油をえりてはういふ田の油を

中へりぬをえりて 油をえりてはういふ田の油を
えりてはういふ田の油を

おもて水はえりて 油をえりてはういふ田の油を
えりてはういふ田の油を

隅までえりて 油をえりてはういふ田の油を
えりてはういふ田の油を

ワケ——て百ふといちて水とをふ——○種をふ——て
もほ多き時にまづ水とく竹の筒は小さき穴をけけ栓を
き——油を入田の中へ入て栓をぬきわどく油を入れて先所
歸よりふりふき——て油をち——又其間より数すくふは
右は桶ともちたふくく桶梅を拵てふの中へ油の入るや——
桶より水をひてけけし又数すく右に穴をどの竹とちてた
まのくくふを拵てうの竹よりいひまぬや——てま——水中
ふちす——て其明日をて多しけけ右の水とて又右のとく
す——しはふちせこれよりつ——く虫多しけけ二二三井—
をいふふは入するれは三三井と一井とへし○まゝ繭油を繭

を拵てく漏き——る時あり——てす——い——をぬき部を三々
入——く交せ糸のく竹の筒は又て田はそく——し繭より三三
尺の糸糸をとりて種を三三井とけけなりひ水をはふてを天
使晴の日中よりす——したなくて切が——○早——て水気なく
田の中より割る時に又油一井の割して水はまき桶に穴
たは拵ち右は小さき糸糸のちきをはそれよりひ——て桶梅
を拵てけけけへし桶の乱るもいひ先へ一人桶を拵て種を
けけけへしとよりその桶は糸糸をひ——て右のとくす
へし尚まづ二三日を合て又くのく——て——○虫生——る
とてがく繭油を用ひてふちすへしおくれへ油は余針

はまの度を用いたれどきぐし其に油をいれるあき
れに後の生をすりに入れし油屋とて油をきり
し其時天をきりしれすきとて種十分はうねて実入りく
たりし又も後のうねて油を用いてふみく入し種とも花
とみすきいなりとく虫のちいさく種のもちきりせり内なり
なりすしし虫卵を生ししなりやすく水の中におちずぬく
田あはせぬなり火をきりて焼くし油ハ種油をうね上
とす其年河豚油胡蘆油鰯の油より菜種油も倍して用
われしし種種油の打ちしとて後うねとてきいなり
ゆししし虫卵なれども粒かともてきくししは虫の

とばとてはきり種かき何なりしとて世に記する事なきぞ
の世話をすししてすておくまとは分種なりしといふも
つとて前法のとくはつて世話をしれぬとのあるしなり
し他はくべてあるし又すておく時このらぬのききず
余の田のききしとてきりしはちよはし助今ふきしし
右除蝗種等は同く出さるしき要所とてきりしはちよ
尚又田都市に無トユまししとく実今その間なりしゆり
なくむけりき世に記すしきものし

天保十一年庚子二月

改作奉行

二月

以能定志

芳華年

石海齋

長史之書

忠孝堂

陳子昂

抄

即在此所

御覽

世之公卿大夫士，雖不與於族，而族之先世，亦下
於之，而所造之，亦無以事。

明
弘治
壬午

當時通用之紙伸餘者於月札割札九月月中迄三書以
習而後新札より習了る者迄三紙中渡書通る者如
未し習了る者迄三紙中渡書通る者如
是より通新古より迄三紙通る者如

六月令

前田因通

渡辺新病後

前田江左飛友

布通即因由通及後渡り有る者迄三紙通る者如
未し通る者迄三紙通る者如

先く通る者迄三紙通る者如

二月七日

前田

中野新

渡辺部

前田因通

前田中

前田中

前田中

前田中

前田中

前田中

大同附記

前々譯寫不悉於寺所不載件 其寺所領新寺社領米其村方所
而後載件其書後果載件 下書載件 読文御神御代辰
新領米領米地取分寺村方所米其寺所領米其村方所
其集戸所領米寺社所月所米其寺所領米其村方所
許読文古米其寺所領米其寺所領米其村方所
右寺通て其寺所

日月

前々譯寫不悉於寺所不載件 其寺所領新寺社領米其村方所
而後載件其書後果載件 下書載件 読文御神御代辰
新領米領米地取分寺村方所米其寺所領米其村方所
其集戸所領米寺社所月所米其寺所領米其村方所
許読文古米其寺所領米其寺所領米其村方所
右寺通て其寺所

公義お渡山書付其寺所領米其寺所領米其村方所
其寺所領米其寺所領米其村方所
其寺所領米其寺所領米其村方所

庚子
二月五日

奥村丹後守
横山城守

石部右近将
其寺所領米其寺所領米其村方所

御神領米寺社領米其村方所領米其寺所領米其村方所
其寺所領米其寺所領米其村方所

公義お渡山書付其寺所領米其寺所領米其村方所
其寺所領米其寺所領米其村方所

子
二月廿四日

御算用場

渡辺新龍生

新江花皮

實

礪波郡福所村江浪
神修屋三則素

の

一 多 月 三 五 圓 文

右者若成妻叔三則本年必病之病幸未滯在子能知少而改龍伯
懷女之惡前也秘書云史病中迫切之說女抱血子後生育方宜
當時遇了及生長何年正病入情甚秘家內腔系甚苦我知
實三前此月也貴弟卷上事

庚子六月

骨

印
竹
子
の

一名同沙黃文

下音江村組金

仁壽

右仁壽義及極老以迄數拾年役至宣統
壬子勅力以重信為賞次

六月

[illegible]

子
二
月

以張之書

沙明

濟寧府志

金龜山金村

怪
三

支那村

方希聖

右每人今發糧銀方蔭男股中什粟五斗五合

子中喜

師範

明倫彙編

以接為十村

予子

醫業

張景初作漢之形勢又

書付志

平陽郡江都村

何者

一、此乃何升

和

何村子名記

2

年分

乃盡
誦

名

王保土年

白雲山

德之許
白口品持
家不

石河經何村而勝何秀嶺高彩雲溪外竹山寺遠母內在名中

七

四

沙改元

沙車所

諸方印此稅銀幾口也臨上納者今收方已如所署付
三稅自是上納在事

他如又銀多者亦不在此限

一會而銀多者亦不在此限

他如又銀多者亦不在此限

一自年七月以後收印信銀印實屬之金銀並上者此
下係自是上納在事

他如又銀多者亦不在此限
一自年七月以後收印信銀印實屬之金銀並上者此
下係自是上納在事

一自年七月以後收印信銀印實屬之金銀並上者此
下係自是上納在事

他如又銀多者亦不在此限
一自年七月以後收印信銀印實屬之金銀並上者此
下係自是上納在事

一自年七月以後收印信銀印實屬之金銀並上者此
下係自是上納在事

一自年七月以後收印信銀印實屬之金銀並上者此
下係自是上納在事

一師家中書自辛六月分家信成子年分亥子年

一去年三月魯月近入實を所定並りなる子年か
拾年後未だ所定なり

望

六月吉

石印用舊家印通堅不爲所害

令就院攝印十七用忘印法事 事月十二日於天德院
師規以府印封手印矣風乾者古兼諸祖弓訣乾者
古之後十日今十二日近者止

師規以府印射之而吳風就者古義瑞組弓族炮就者

古之侯十曰今十二曰近

一覽聖子外諸教生身又寫此卷成十卷不立而近音一

五十七

一審法化事之成十月十九日迄終止す

但於氣味常法外復有文才之思以

古直方寸之間彼中仙遊組支配家澤松平氏藏

六月

前田内通

海山新氣

此處係舊時所置之寺也其地所在古組之
より其寺之屋根一戸屋根之寺に近き所を
此處と云ふなり

子六月廿

市田河内

市田河内

同前

同前

同前

同前

同前

此處係舊時所置之寺也其地所在古組之
より其寺之屋根一戸屋根之寺に近き所を
此處と云ふなり

今般中一統元保元年第3通即信念能作時
中花子一町花子二花子年石井元子源氏系網
方諸事古元年第3通即信念能作時
元保元年第3通即信念能作時

六月晦

市田河内

市田河内

市田河内

此處係舊時所置之寺也其地所在古組之
より其寺之屋根一戸屋根之寺に近き所を
此處と云ふなり

下條の先、丁連あるし、所、之、録、成、名、判、成、爲、若、者、也

子七月

申部

所部

所部

十村中

此月申部用部

前、去、酉、年、六、月、迄、内、申、部、渡、り、申、部、部、年、迄、上

お、申、部、の、所、を、改、め、申、部、年、迄、上、申、部、部、年、迄、上、申、部、

一、申、部、は、能、有、酉、年、を、固、病、若、者、に、五、極、と、て、申、部、渡、り、申、部、

申部

一、去、申、年、迄、酉、年、九、月、迄、内、迄、成、り、外、別、成、部、申、部、延、拂、申、部、

申部

右、所、申、部、渡、り、申、部、上、申、部、右、申、部、

申、部、の、所、を、改、め、申、部、年、迄、上、申、部、部、年、迄、上、申、部、

庚子六月

去、酉、年、迄、申、部、申、部、渡、り、申、部、上、申、部、右、申、部、
方、年、迄、申、部、申、部、渡、り、申、部、上、申、部、右、申、部、

七月

申部

改部

子六月十九日

清田長三郎

信部

御柱物中示

子十村中

新田七郎伴未

御郡方の公事場へ授役指書は、殿方より此條書付付
 右殿方若し御方以上へ令渡り、右殿方若し、條書
 中法より少敷申渡定む事、公事場より渡り上法より
 候中法より通し、右付役新川郡方より右殿方より、右殿方より

公事場及び社会の如き商場、公事場、社会等々を以て其の要因
△其の系未だ相互に繋ぎあはれざる處あり。後より又之を繋ぐと云ふことあり。
若し療養室中、該少年が授けられたるもの、其の中、該少年の所存する
給ふ以上、公事場にも及ばず、授けられしものと異なる者、療養室
中、該少年が授けられたるもの、其の中、該少年の所存する

此の如く

六月廿四

御墨用場

渡道新龍虎

以隆文四節

常田江之飛渡

此書之序也

右之通令不即其用傷多事也右之事務檢校之上應書
有難而若之即令即事也而之難而若之應書也中後之
子孫之通令是年之通令也而之通令也而之通令也而之
而之通令也而之通令也而之通令也而之通令也而之
而之通令也而之通令也而之通令也而之通令也而之

七月二十

抄本

張應節

以抄本

年十

抄本

右之通令不即其用傷多事也右之事務檢校之上應書

抄本

右之通令不即其用傷多事也右之事務檢校之上應書
有難而若之即令即事也而之難而若之應書也中後之
子孫之通令是年之通令也而之通令也而之通令也而之
而之通令也而之通令也而之通令也而之通令也而之

改他本

右之通令不即其用傷多事也右之事務檢校之上應書
有難而若之即令即事也而之難而若之應書也中後之
子孫之通令是年之通令也而之通令也而之通令也而之
而之通令也而之通令也而之通令也而之通令也而之

子六月

以能定其清

芦花亭

石橋寺

長田金吾

告廣以聲

御覽

印子

商八朔

夏所
秋上
柳梵
燒誘
告
及風
王欲
中法
誘也
而

燈燈指光以爲所用之即舍舟而渡遂不泊焉

陽春 五砒 石中 奉 德 田 九 所 及 守 守 公 高 副 成

每通即用卷辛、奇中、藥、後、舟、字、古、越、八、糸、爲、之、念、更

花中隱士

七月亦細

所築用塙

赤田主市爲

禁裏山用湯抄師之記
派之能者古之仗者之儀

天保十一年七月

村刀報五方之足象足未據分五極子寢中懷

湧波歌

村ノ報知書

一 諸君ノ事

一 衆人ノ事

但衆人ノ事ニ至リテハ何程難キ事ニテハ後者面を以テ上面中下面
ニ成ルニ至ルニモ亦至リ難キ事ニテハ後者面を以テ上面中下面
ニ成ルニ至ルニモ亦至リ難キ事ニテハ後者面を以テ上面中下面

一 衆人ノ事

一 今ノ事

一 今ノ事

一 今ノ事

一 今ノ事

一 今ノ事

一 今ノ事

一 今ノ事

一 今ノ事

一 今ノ事

一 今ノ事

一 今ノ事

但衆人ノ事ニ至リテハ何程難キ事ニテハ後者面を以テ上面中下面
ニ成ルニ至ルニモ亦至リ難キ事ニテハ後者面を以テ上面中下面
ニ成ルニ至ルニモ亦至リ難キ事ニテハ後者面を以テ上面中下面

一 今ノ事

一 今ノ事

一 今ノ事

水下銀

川節貞吉法新用集卷之三

仰知乃百姓分持未却府報陳河侯并同願受

即後之字輪和種第第內并抄集人呈報

此後人亦主張上府新軍河以資藉口應與未

柳塘漁父
人曰
新開

抑多々内山草履のふ余り

丁卯年上巳日

中

中
信
名
河
平
上
書

山年下在

亦附錄于結貨余為

即卷中極其口氣

納余存

川下即平上之溪

柳系部 柳系部 柳系部 柳系部 柳系部

御覽此以字乃本易余為

市井坊人^五迫^り宿奈^な為^な

國郎二石十石 常金

但少許也

用此

月以爲念

唐詩集卷之四

石在入子石也象之

出山作仙遊詩云若無皇朝

乙卯年會新集

何止云々

一 往還道造米村乃乃造入月赤掃除金銀

一 三河平城山山波銀

一 川原山赤金銀可平手

一 井所赤金銀

一 中花山赤金銀赤金銀也赤金銀赤金銀

一 中花山赤金銀赤金銀赤金銀

一 城陽赤金銀赤金銀赤金銀

一 中花山赤金銀

一 傳芒倉地子赤金銀赤金銀

一 此後赤金銀赤金銀赤金銀赤金銀

一 赤金銀赤金銀赤金銀赤金銀

一 中花山赤金銀

一 新田赤金銀赤金銀赤金銀

一 赤金銀赤金銀

一 福光山赤金銀赤金銀赤金銀

一 福光山赤金銀赤金銀赤金銀

一 赤金銀赤金銀

一 赤金銀赤金銀

一 赤金銀赤金銀赤金銀

一 赤金銀赤金銀

一 赤金銀赤金銀

一 赤金銀赤金銀赤金銀赤金銀

一 赤金銀赤金銀

一 赤金銀赤金銀

一 赤金銀赤金銀赤金銀赤金銀

一 赤金銀赤金銀赤金銀赤金銀

如世の今をて終るは能く合ふ事なり

一村の能く人死にすは其の世なり

一村の能く人死にすは其の世なり

一村の能く人死にすは其の世なり

一村の能く人死にすは其の世なり

一村の能く人死にすは其の世なり

一村の能く人死にすは其の世なり

一村の能く人死にすは其の世なり

一村の能く人死にすは其の世なり

一面の能く人死にすは其の世なり

一村の能く人死にすは其の世なり

一面の能く人死にすは其の世なり

一村の能く人死にすは其の世なり

一面の能く人死にすは其の世なり

一村の能く人死にすは其の世なり

一面の能く人死にすは其の世なり

一村の能く人死にすは其の世なり

一村の能く人死にすは其の世なり

一村の能く人死にすは其の世なり

一村の能く人死にすは其の世なり

一村の能く人死にすは其の世なり

一村の能く人死にすは其の世なり

一村の能く人死にすは其の世なり

法部為部中代役納方系於本年割府方第六所格授十村新田
 十許山田格加納其量店以充中代相改中格授十村內以充年番
 其五納納其量店以充本年割府方第六所格授十村內以充年番
 改中格授十村內以充年番其五納納其量店以充本年割府方第六
 所格授十村內以充年番其五納納其量店以充本年割府方第六

子六月十四日

野井丹之丞
 上月日當無事

佐部

同 同
 同 同
 同 同

想而飲中代友分中格授十村內以充年番其五納納其量店以充本年割府方第六
 所格授十村內以充年番其五納納其量店以充本年割府方第六

但細方之納其量店以充本年割府方第六所格授十村內以充年番其五納納其量店以充本年割府方第六

一十年為部中代役納方系於本年割府方第六所格授十村新田

一村之內以充年番其五納納其量店以充本年割府方第六所格授十村內以充年番其五納納其量店以充本年割府方第六

一十年為部中代役納方系於本年割府方第六所格授十村新田

一村之內以充年番其五納納其量店以充本年割府方第六所格授十村內以充年番其五納納其量店以充本年割府方第六

一十年為部中代役納方系於本年割府方第六所格授十村新田

一村之內以充年番其五納納其量店以充本年割府方第六所格授十村內以充年番其五納納其量店以充本年割府方第六

但押切帳系部中代役納方系於本年割府方第六所格授十村新田

世市以市代友子純中幸黃年事

第...

組...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

春秋史記

...

...

...

右...

...

...

...

...

...

...

庚子九月

均能定書

共出平如

石橋市廣

在果金廣

安慶路廣

子九月十七日

修東家合而為之極而書

中提轉人

夏利木氏口漢述之條

今股中代廣年未納方府在神東納公氏古納中納年未納
之向是納元半以系納用方未方是人之少納年一系納
年之納元納公納必不而之少納年一系納年一系納
而中法是未少心為遠方故乃家事

一為合納元今及後知上之納元出多入之者年一系納年一系納
納書物納年未納未納為納年一系納年一系納年一系納
年一系納年一系納年一系納年一系納年一系納

年一系納

一付之納年一系納年一系納年一系納年一系納
年一系納年一系納年一系納年一系納年一系納
年一系納年一系納年一系納年一系納年一系納

組下材と中流と骨之

今般中伐木采納乃有市持取人十村出細少料之人てい多代たにお
納せ付る納中品年常口年て因て未だ難用方ある方より人
てい少出納事にてい一層一十年少改出納て歩們必ふてい多未だ
般中伐木後より方授け人未だ中へて上高一年未りてい不
てい多未だてい中泥中歩納中後て村役人てあてい中納てい
又新用少料出出て市役人年納方てい多因て納方改作てい
一組方納てい多てい結中てい多てい多納てい多てい多納
方てい多納てい多納てい多納てい多納てい多納てい多納
法書物新采書物未一采中てい多てい多納てい多納てい多

貸附金は彼處より利は限り立りて後進息は彼處にありて利は
 由りて金と許中へ紙金に於て秋元村に金銀を貸し給ふ所
 利は即ち用給ふ事と曲解はなしと云ふ所毎周隔に於て此の如く
 利は即ち用給ふ事と一統と云ふ所毎周隔に於て此の如く
 金銀は金銀の如く金銀に於て利は限り立りて後進息は彼處に
 ありて金と許中へ紙金に於て秋元村に金銀を貸し給ふ所
 利は即ち用給ふ事と曲解はなしと云ふ所毎周隔に於て此の如く

楊中節新

田中村
 恒生村
 中田村
 恒生村
 恒生村
 恒生村

田中村
 恒生村
 中田村
 恒生村
 恒生村
 恒生村

恒生村

今般お取の拾年毎通上り用給ふ事と曲解はなしと云ふ所毎周隔に於て此の如く
 利は即ち用給ふ事と一統と云ふ所毎周隔に於て此の如く
 金銀は金銀の如く金銀に於て利は限り立りて後進息は彼處に
 ありて金と許中へ紙金に於て秋元村に金銀を貸し給ふ所
 利は即ち用給ふ事と曲解はなしと云ふ所毎周隔に於て此の如く

又八

小兒

八月

沙畚田塢

礪波

以勸車中
改龍車中

役而人不知其若夫以書法書為求之上為讀書判形之定便為之役
近年接書成第安為判形之定為加第之定亦極之定五之定六
論之定亦為求之定之定書為改判形之定之定五之定為之定
不若原之定亦為求之定之定自之定之定堅指止之定書為求之定之定後

一文政元年御注法後部口書判於治明年六月八日南華寺藏
如上年檢上成文代爲足而重南時治明年十月村造人古藏多端
之口書二月某口書三月口書四月口書五月口書六月口書七月口書八月口書九月口書十月口書十一月口書十二月口書
口書正月口書二月口書三月口書四月口書五月口書六月口書七月口書八月口書九月口書十月口書十一月口書十二月口書
口書正月口書二月口書三月口書四月口書五月口書六月口書七月口書八月口書九月口書十月口書十一月口書十二月口書

右條各筆法動者口書之字諸代元主附總之范入組札者ハ切者
或五代戸付細之代時ニ用之多ク見ル諸事十村ノ其時ニ及
指當口書ヲ調時ニ至テ附如本ニ依據果テ務カ役ニ抑々知シ
爲事ナリト書入田藤紙ニ交不苦以余免角藤略モ多ク
いふモ子早オ調録均与戸付當時ニ諸事十村ノ其時引ム
右ノ類均モ名付紙面早代漏メ張直少後字違失殆力悉

正一寺のり

子三月

渡辺新龍下

蕭田江記

難波部

少壯之人

平十村中
廻持
新里中

平山が来り中折紙去書分城端外賣捌方指箇云云其其其
讀み小紙云々平賣捌指解り糸中入代根引替り福光番箇
所はあて書渡り糸計候更に中渡り且書渡り云々来月入代根
而月有き月元月増書渡り書り書渡り者賣捌方是右様十
支割口渡り外に利も取法に候に中渡り

三月六日

渡辺新里中

新里中

新里中

而月有き月元月増書渡り書り書渡り者賣捌方是右様十
支割口渡り外に利も取法に候に中渡り

子三月十日

廻持

新里中

廻持

新里中

新里中

廻持

新里中

廻持

而月有き月元月増書渡り書り書渡り者賣捌方是右様十
支割口渡り外に利も取法に候に中渡り

外打用酒邊新乳

為田夢凡

天德院記之爲去年中御役僧中其指命遷建以來有村後人
中史云平溪山爲別處通經之寺也昔年即因之遷入御談平山右
老道云在唐中寺中寺通誠中外御願云古我一經平均三年同
復之易之語能知是上而御願之家生去年生所有一布及國寶石丸
外御願禮之江東寺中沙門等與中門御願云通經平山後院
御役僧中之外御願禮之以御願之寺爲是寺之寺也

予と市海志と市志とを乃河と云ふ事新之條に於て

子三月廿

長樂之志

海上新花樣

荒田沼地様

實

一六四

山田

一五五

太史公

一音月

井口組

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

五旦

一音月

一音月

一音月

一音月

一音月

一音月

一音月

一音月

一音月

一音月

一音月

一音月

外音月

解音月

野音月

山音月

庄音月

殺音月

若音月

宮音月

象音月

之音月

玉音月

一音月

石音月

子音月

子音月

子音月

子音月

子音月

子音月

子音月

子音月

子音月

子音月

子音月

子音月

子音月

解音月

野音月

山音月

庄音月

殺音月

若音月

宮音月

象音月

之音月

玉音月

玉音月

玉音月

玉音月

玉音月

玉音月

玉音月

玉音月

玉音月

玉音月

玉音月

玉音月

玉音月

玉音月

玉音月

玉音月

玉音月

玉音月

玉音月

玉音月

玉音月

出憲之犯の事、元より、其付の如く、梅、元、其、め、見、ま、る、元、
其、ま、り、け、り、け、り、け、り、け、り、け、り、け、り、け、り、け、り、け、り、
り、上、出、海、り、て、其、元、の、田、水、を、注、水、に、油、を、注、り、て、其、元、を、入、
り、其、元、田、の、中、に、入、り、梅、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、

一、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、梅、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、
油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、梅、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、

一、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、梅、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、
油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、梅、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、
油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、梅、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、
油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、梅、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、

り、其、元、早、速、に、一、つ、つ、梅、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、
油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、梅、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、

一、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、梅、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、
油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、梅、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、

油、水、を、注、り、て、其、元、を、入、り、梅、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、
油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、梅、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、

油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、梅、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、
油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、梅、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、

又、田、地、を、其、元、月、に、依、り、包、圍、の、水、を、注、り、て、其、元、を、入、り、
油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、梅、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、

の、元、を、注、り、て、其、元、を、入、り、梅、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、
油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、梅、油、を、注、り、て、其、元、を、入、り、

又二高を去る中、志掃うれも若きゆゑと云ふ事も
録し用ふ

一、如く思ふ限、此より苗作て害をうへ、は生さず、所をたし
す、ぬち痛し種をまき心附く事

一、寛政八年、生所より、舟中、船より、内、録、油、を、受、と、作、派、又、曉、天、見、上
今、石、灰、を、う、け、い、は、法、中、改、此、所、を、作、派、少、紙、を、い、事

當年、法、國、も、田、畑、法、此、一、統、を、事、方、道、を、龍、一、年、抵、お、少、り、如
場、所、を、お、わ、く、死、生、所、を、お、ま、ま、と、思、は、し、あ、ま、格、別、を、信、じ、し

り、村、方、を、為、し、し、り、法、中、少、り、事、を、場、を、い、は、法、中、防、り、い、事、派
り、勾、添、を、土、地、を、お、ま、ま、と、思、は、し、い、は、法、中、防、り、い、事、派

庄を信し——又、生、所、を、田、方、を、録、し、油、を、い、一、統、を、三、派、程、死、お

其、事、録、し、油、を、い、他、を、曉、天、見、上、石、灰、を、う、け、い、は、法、中、防、り、い、事、派

い、今、石、灰、を、信、し、い、は、法、中、防、り、い、事、派、一、年、抵、お、少、り、如
今、石、灰、を、信、し、い、は、法、中、防、り、い、事、派、一、年、抵、お、少、り、如

事、村、方、を、為、し、し、り、法、中、少、り、事、を、場、を、い、は、法、中、防、り、い、事、派
石、生、所、を、法、中、防、り、い、事、派、一、年、抵、お、少、り、如

石、生、所、を、法、中、防、り、い、事、派、一、年、抵、お、少、り、如
石、生、所、を、法、中、防、り、い、事、派、一、年、抵、お、少、り、如

一、う、ま、き、の、油、を、信、し、い、は、法、中、防、り、い、事、派、一、年、抵、お、少、り、如
う、ま、き、の、油、を、信、し、い、は、法、中、防、り、い、事、派、一、年、抵、お、少、り、如

内務省

河津連名

新田文雄

河村雄
連名

河村

河村

上中下三行

下流之別と諸君の意見

河村組

河村組

河村組

河村組

河村組
河村組

河村組
河村組

新田方河津連名三月乃南道名月三至寺河津連名

河津連名河津連名河津連名河津連名河津連名

河津連名河津連名河津連名河津連名河津連名

河津連名河津連名河津連名河津連名河津連名

河津連名河津連名河津連名河津連名河津連名

河津連名河津連名河津連名河津連名河津連名

河津連名河津連名河津連名河津連名河津連名

河津連名河津連名河津連名河津連名河津連名

河津連名河津連名河津連名河津連名河津連名

河津連名河津連名河津連名河津連名河津連名

根帳通り分金及び根帳算入並に新入分金等々
此等分金等根帳算入並に新入分金等々
別して分金等々分金等々分金等々
分金等々分金等々分金等々分金等々
子口月分

法則

山田組

十村

中

新田組

此等分金等根帳算入並に新入分金等々

本組支分金別帳算入並に新入分金等々
本組支分金別帳算入並に新入分金等々
本組支分金別帳算入並に新入分金等々
本組支分金別帳算入並に新入分金等々
本組支分金別帳算入並に新入分金等々

三保十一年三月

新田組

一村建部分金等々分金等々分金等々

山田組

井口村

山田村

西明村

細田村

新田村

新田村